

勇払原野 厚真町から 日本一の思いをこめて

長谷 誠良 (はせ せいよし)
JAとまこまい広域厚真町ハスカップ部会 会長

北海道南西部に位置する人口約4,500人の厚真町は、栽培面積が日本一のハスカップの町です。ハスカップはアイヌの時代から「不老長寿の妙薬」と言われ豊富な栄養素を持ち、北海道特産の果実です。第9回「わが村は美しくー北海道」運動コンクールで優秀賞を受賞しましたJAとまこまい広域厚真町ハスカップ部会の会長、長谷誠良氏に伺いました。

《厚真町の二つの宝石》

JAとまこまい広域厚真町ハスカップ部会は、勇払原野（鶴川・厚真・安平）のうち、厚真・安平で自生していたハスカップを植えたことが始まりで、栽培してから約50年になります。現在、部会の構成員は100名あまりで、ほとんどのハスカップ農家は兼業で米や野菜を作っています。部会の活動は年3回、3月に総会兼講習会、6月に出荷説明会、10月または11月に剪定講習会（目慣らし講習会）を行っていて、毎回50人以上参加しています。

ハスカップは交配ではなく、選抜し、挿し木した苗木を育てます。苗木の購入には町からの助成の協力もあり、品種の保護になっています。現在、「あつまみらい」と「ゆうしげ」の二種類の品種があり、厚真町のみで栽培が許可されています。これは、山口農園の山口さん（副部会長）がお母さんの思いを受け継ぎ、日本一の産地を作ろうと考え、農業試験場の協力もあり品種登録までになりました。大粒で糖度も高く甘いのが特徴です。



《震災を乗り越えて》

2018年9月6日、北海道胆振東部地震が起きました。この震災で4万本のうち、25%の1万本が被害にあい、元の収穫量まで戻すには5年以上かかります。復旧は進んだけれども、復興はまだ現在進行形です。今年は6月23日に出荷、24日に初競りがあり、大粒で出来が良いと高い評価で、1パック300g入1,500円のご祝儀相場がつかまりました。

ハスカップは6月から7月中旬に旬をむかえ、皮が柔らかくとてもデリケートな果実で、収穫はすべて手作業で行われます。1本の成木から約1kg弱くらい採れますが、今年は6月の暴風雨で20~30%収穫量が落ちました。何度か機械化を試してみましたが、柔らかいため難しいのが現状です。また、厚真町のハスカップは生食用に改良し生産されていますが、日持ちが短く道内でも生食での流通は限られ、主に苫小牧近郊のスーパーで販売されています。ハスカップにはビタミンCや鉄分、カルシウム、ポリフェノールなど栄養も豊富でまさにスーパーフードです。ぜひ生食で旬の時期に食べたい果実です。

近年、農家の高齢化や、後継者は大型機械を使う畑作や稲作を選択する傾向にあるため、維持していくのが課題です。部会の人たちは町と連携し出荷基準を決め品質を保持するために、ブランド推進協議会を立ち上げハスカップの栽培を推進しています。震災後もハスカップを再建していこうという部会の思いが何よりもありがたく、今後も良い物をたくさん採れるようにしていきたいとお話してくださいました。また、今年、7月7日が「ハスカップの日」として登録されました。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1~9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。